

人とツグミの不思議な交流が読めて楽しい。

立山 庄川を真つ赤なトラムが渡る時海の向こうに見える
田中和美

富山への旅をうたった今月の一連。大伴家持が越中の
国府に五年間赴任していた関係で、高岡市の赤いトラム
は万葉線と名付けられている。立山をうまく配して、絵
はがきのような場面をとらえている。私は毎年十月、高
岡市で開催される万葉祭に参加していて、何度かこのト
ラムに乗ったことがある。

大玉が転がってくる 押している息子が見えない角
奥村知世
度のビデオ

家族同伴の職場の運動会の一連の作。運動会を直接う
たうのではなく、運動会を撮ったビデオを家族で見えて
いる場面をうたう。場面の取り方の工夫に注目。家族の笑
い声が聞こえるような一首にしあがっている。

振袖の学生が手にうけている消毒液と春の光と

屋良健一郎

なぜ消毒液なのか、五年もすれば分からなくなってい
まうだろう。今だから、新型コロナウイルス騒ぎのなか
の卒業式だということが分かる。時事詠のここが面白い
ところで、同時にむづかしいところ。賞味期限があつて、
それが過ぎると解説がないと分からない。私の歌でも、
学生時代に安保闘争をうたった歌など、すっかり賞味期
限が切れてしまっている。

忘れないで忘れないでと言うてゐる昨年植ゑし十の

球根

若林卓宣

未だ芽吹かない十個の球根。植えた人以外はだれも知
らないわけである。球根の声が聞こえるのも植えた人だ
け。球根と作者だけが知る小さなドラマ。

本州の旅はじめてのももちゃんが今年の柳葉魚の話
蔵田道子
からする

作中の「ももちゃん」は、北海道在住の少女というこ
とが誰にでもすつとわかる。「本州」「柳葉魚」という語
がうまく使われているからである。用語の妙。

「コート等ご持参ください」窓、扉、開け放ち吾ら
森祐希子
会議するなり

新型コロナウイルス騒ぎの中、大まじめに言われてい
ることが、客観的にみると全くの意外で、ずっこけそ
うなジョーク以外のなにものでもない可笑しさ。

オレンジの各駅停車消える日を忘れてマスクし続け
る日々
青山 仁

三月十四日のJR東日本のダイヤ改正で、中央線と総
武線がはつきり分けられ、中野・御茶ノ水間を走ってい
たオレンジ色の各駅停車はなくなることになった。われ
われ一般乗客はほとんど気づかないことだが、鉄道ファ
ンには大事件だったらしい。「東京新聞」によれば、な
んと半世紀ぶりの大転換とか。

生徒らのこゑのきこえぬ教室に遊びにきたるやまば
との鳴く
本田一弘

一斉休校の校舍独特の深い静寂をうたい、ヤマバトの
声を出したところが独特。高校教員の作者ならではの一首
と思う。